

# ふなみち

2020年  
8月13日(木)  
第3510号

船橋市役所  
職員労働組合  
発行責任者  
青木 賀一  
編集責任者  
黄木 祥久子  
Tel.047(436)3093  
fax(436)3091  
Eメール  
f-kumiai@alpha.  
ocn.ne.jp

# 8月7日 市長と懇談 新型コロナウイルス感染症問題



アンケート結果を手渡しました

組合は「職場実態アンケート」(6/15〜7/17)に取り組み、アンケートの結果に基づき市長との懇談を申し入れ、8月7日16時30分から約1時間、市長懇談を実施しました。懇談内容の抜粋を掲載します。

今後は会計年度任用職員で対応

懇談は冒頭、青木委員長の挨拶から始まり、組合よりアンケート結果の全体像を説明しました。

市長からは「4・5月の緊急事態宣言下では、保健所や北総育成園の支援について、職員の協力で人員体制強化が出来、乗り切るこ

とができた」と感謝の言葉がありました。その上で、「7月から感染者が急激に増えているが、通常業務があり、今後は応援体制では対応しきれないので、会計年度任用職員

の一般事務を募集し、対応するための準備を進めている」との話がありました。

## 県内でも誇れる検査体制

市長は医療体制について、「医療体制は県の管轄だが、船橋市は独自に対応し、県内でも誇れる体制になっている。PCR検査態勢についても充実していて、職員の努力に感謝している」と話がありました。

組合は保健所の過労死ラインを遙かに超えた残業時間を指摘し、「市民にとっては、幅広いPCR検査は安心・安全に繋がり、新型コロナウイルス感染症拡大防止にも大きな力になることは否定しない。

しかし、人員不足で職員の努力だけに頼っている現実があり、職員もメンタルにぎりぎりにきている」ことを話しました。

市長からは「保健所では、陽性者が出たときの追跡調査が一番負担がかかっている。会計年度任用職員の一般事務を採用し、今後は保健所の職員しか出来ない仕

事に専念してもらえよう体制を整えていきたい。

PCR検査については、誰でも検査出来る訳でもなく、人がいな

## 管理職のマネジメントが問われる

組合は、新型コロナウイルス関連のいろいろな交付金が国から下ろされてくるため、今後は本庁舎内の長時間残業が懸念されると指摘しました。

市長からは「職員に負担がかかっているのは承知している。管理職のマネジメントにもよるが、健康管理と仕事に優先順位をつけ、一定の残業は仕方ない」ということ

交付金については、期間がある事なので、今までも職員は頑張ってきた。残業代削減を目的にするのではなく、今市民にとって必要な仕事は何なのか、市長の言葉にもあるように、管理職の確かなマネジメントが本場に問われていると思います。

## 保育現場にフェイスシールド配布を検討

保育現場では、待機児童がいる中、過密保育が強いられています。密を避けるため、小学校同様少

人数保育が求められています。それには人手が必要です。

玩具のブロック一つ一つを一日数回消毒するため、そこにも人手が必要。そもそも欠員の上、人手不足に拍車がかかっています。

また、マスクを着用しての食事指導は、乳児に口の動きを見せられない弊害があり、職場からはフェイスシールドの配布要望があります。毎回食事指導の時には新しいマスクの着用が求められているため、マスクも不足しています。

アンケートには、全職場で消毒液の不足、放課後ルームでは手洗い石けんの不足の訴えもありました。

市長からは「アンケートを取った時期には消毒液が不足していたが、今は充足している。放課後ルームの手洗い石けんについては、認識がなかったので担当課に確認する。

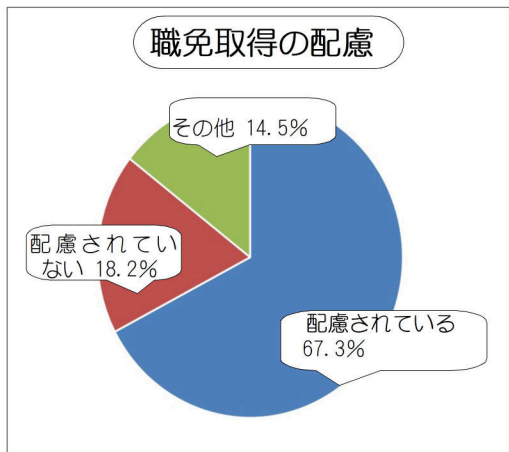
保育園の欠員については、これまでも聞かされてきたが担当課に伝えておく。フェイスシールドについては、飛沫感染防止の観点から保健所に確認し、保健所の合意が得られたら配布する方向で考えたい」とのことでした。

最後に組合から「コロナ禍で解雇や賃金削減が社会問題となっている中、また公務員ハッシングが懸念される。職員は本場に頑張っている。このモチベーションを下げないためにも、職員の頑張りを市民に伝えて欲しい」と訴え懇談は終了しました。



# 「職場実態アンケート」にご協力ありがとうございました

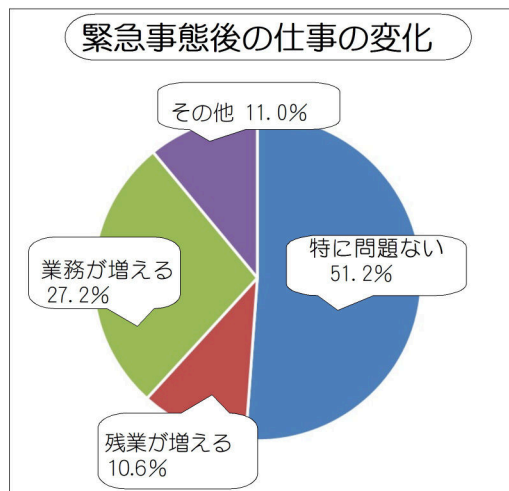
組合は、6月15日～7月17日の間「職場実態アンケート」に取り組み、596名の方にご協力頂きました。アンケート結果の抜粋を掲載します。新型コロナウイルス感染症拡大防止対応では、それぞれの職場で大変な思いをして仕事に取り組んでいる実態が明らかになり、この結果を今後の運動に繋げていきたいと思っております。  
アンケートへのご協力ありがとうございました。



約2割の職場が配慮されていないと答えています。配慮が必要な方は、小さなお子さんを抱えていたり、妊娠して

「『新型コロナウイルス』(COVID-19)の職場での対応について」約2割が休暇制度への配慮無し

感染・感染の疑い・出勤困難などの際に、特別休暇や職務免除(職免)の制度があります。(船橋市は職免扱い)現在は、感染の広がりと共に、この範囲がもっと拡大され、感染者の濃厚接触者の場合でも、判定が出されるまでの間、職免扱いとなりました。  
この制度を知っていますか?の問いに「知っている」と答えた人が、69.3%、約7割の人が知っているという結果でした。  
この時期は、この件での問い合わせが、組合に多く入っていたので、周知徹底がどの位されているのか疑問でしたが、思った以上に「知っている」と答えた人が多い結果となりました。  
しかし、約3割の人は制度を知らずに、不利益があったことも想定されます。今後は、より一層の周知徹底が望まれます。



職場の予防対策(窓口の亚克力板等の設置、消毒剤、マスクなど)の点では、「充分」「まあまあ」と答えた方を合わせて、86.8%でした。「不十分・不安の理由」では、多くの職場で消毒液の不足が指摘されていました。  
保育園をはじめとする福祉関係職場では、それに加えマスクの不足(保育園職場では食事指導用のマスクが求められている)、放課後ルーム職場では、石けんも不足しているようです。  
感染リスクを抱えながら、衛生用品までも不足している現状が明らかになりました。  
感染拡大防止の要である衛生用品については、早急に配布してもらう必要があります。

## 職場の声・こゑ

《出勤抑制についての感想・意見》

《今後の感染予防対策で当局に求めたいこと》

- ◆ 子どもがいるので在宅勤務が難しく有休を使った。(保育園)
- ◆ 週休日の振り替えなどで土日の分散勤務も提案されていますが、これからの季節エアコンをつけてくれない中で本場に土日勤務が可能な方よく考えた方がよい。(本庁)
- ◆ 現場対応で職員数が多い中、時差出勤することで対策がされています。今後の第2波に備えて継続することで感染拡大を防ぐことが出来ると思う。(清掃センター)
- ◆ 在宅勤務の内容が難しかった。報告の仕方など他職種との差があったと思う。仕事量の個人差(得意不得意、小さい子がいる等)も配慮してほしい。(保育園)
- ◆ 在宅勤務により、仕事が多まり休みが取れない、取りづらかったことを感じた。他にも保健所等への応援に行った人の業務を代わりに担当することもあり、いろいろ大変だった。(本庁)
- ◆ 時差出勤が強制されているため、共働きとしては子どもの送迎など苦労している。また、早出勤により、逆に東京通勤者と電車が一緒になりリスクが増している気がする。(本庁)
- ◆ 在宅、交替出勤、現在はしていないが、出来る人は引き続きしても良いのでは、密を避けるのはずっと必要。(福祉施設)
- ◆ 人数を減らしつつ、通常業務を遂行しなければならぬので、業務量の削減やそれに係る市民からのクレーム対応について検討して頂きたい。(本庁)
- ◆ 保健所に応援に出すのは仕方ないが、元々人数が少ない課から複数出すのはおかしい。各所属の人数を把握した上で、どの部から何人と決め、負担がかららないようにしてほしい。(本庁)
- ◆ 密にならないために分けて活動したり工夫しているが、人がいなくて難しい。夏季休暇でさらに厳しい。これ以上苦しめないでほしい。(保育園)
- ◆ 「コロナ等の予定外の業務が増える中、いっしょに増員されず不安。(出張所)
- ◆ 児童を見守る職員を確保してほしい。(放課後ルーム)
- ◆ 細かいところまで対策案を出してほしい。(学校)
- ◆ 玩具消毒等こまめにしたいが出来ないのが現状。人手があれば出来るのではないか。(保育園)
- ◆ アクリル板。子どもと職員の食事時に使える物が欲しい。(保育園)
- ◆ リスクを伴いながらの利用者受け入れなので不安は高い。課として方向性を文書で欲しい。(福祉施設)
- ◆ マスクのみで、アクリル板や消毒液の配布がない。(学校)